

# 巻頭特集 コーヒーが更新する 深谷の日常とユニヴァース

11月5日(土)・6日(日)、今年も「コーヒーと日常」が開催される。今回は中山道周辺の産業祭といっしょで、その頃には花園アウトレットもオープン予定だ。秋のコーヒー好きを周辺だけでなく都内などからも集める新・深谷名物イベントに関係する3人から話を聞いた。

担当はヨーロッパタイプの苦めのコーヒーが好みの議員ライター・小林真(名称はおもに通称)。

「カップの中にすべてが詰まっている。イタリアでエスプレッソは、小さいカップに砂糖をたっぷり三杯くらい入れて飲むんですね。三口ほどで飲んだ後、溶けきれなかった砂糖をスプーンですくうとデザートみたいに楽しめる。イタリアではそういう時間が、日常に溶け込んでいるんです。エスプレッソは苦いって思ってた?じゃ、今からお出しします」(10月5日の取材時、編集部・久連松さんのやり取りから)

「コーヒーと日常は2015年に当時七ツ梅酒造跡の反対側にあった深谷ベースでコーヒー店10店舗、全35店舗で第1回を開催。今回はコーヒー店17店舗をはじめスウィーツ、雑貨、本など全89店舗が出店する。「なんでコーヒー以外の出店があるか?」コーヒーは雑貨や本などと共に暮らしを豊かにするもののひとつである、と考えているからです。」

第4回からは城址公園が会場。お客さんとじっくり語りながら提供するこたけの長い行列の束は、いまや深谷の秋の風物詩となった。喫茶キネマトグラフなどスピニアウトイベントも多い。

「のいがいちばんですが、多数のコーヒー店出店のイベントがきっかけで実店舗に足を運んでもらえればと思っただけです」

イベントの背景には、グローバルと深谷ローカルのコーヒー事情がある。20世紀後半大量生産&消費のファーストウェーブから、最近深谷市内にもオープンしたスターバックスをはじめとするシアトル系深煎りが人気になった2000年前後のセカンドウェーブを経て、流通や評価体制の発達で生産した農園の個性が消費者に伝わりやすくなったスペシャルティコーヒーが



「生まれてからずっと近くでながめてきて眼に親しんだ建物。地域のアイコンだし、ぼくは昭和のあの感じのコンクリートが好きなんです。」

誰もがわかる消防署独特の建物でカフェがやれたら素敵じゃないか、カフェだけじゃおもしろくないからいろんなお店が集まる複合商業施設ができれば、そう思って市役所に相談しました」

ところが市の回答は、1981年以前建造の旧耐震の施設は廃用・取り壊しが基本という。数年前、ひとつにこのアイデアをきいていたわたしは、市議としてこの9月の一般質問で同署をはじめ廃用公共施設の再活用の可能性をテーマにした。新しいアウトレットは楽しみだが、ずっと地元になじんだ建物をリノベーションしたおしゃれな店舗はまたわくわくする。建築士にきくと、耐震診断によっては可能性がないわけではないそうだ。



しかし、市の答弁は「活用は難しい」。耐震基準をクリアしても、市街地調整区域で今ある建物全体を店舗にすることはできないという。しかも外部からみるより状態はよくない。近く解体されて売却の予定という。

「毎日みてきたこの建物でのカフェなら、それこそコーヒーと日常ですね。何とかしてかたちにしたいです」

「今までコーヒーって飲めなかったんです!それがロイタス(今回出店のひとつ)さんのアイスカフェラテを初めて飲んだ時、こんなおいしいものなんだ!!って気づいたんです! イベント出店は、コーヒーの魅力を伝えてもらった恩返しと私と同じコーヒーが飲めない方に飲んでほしい!って気持ちがあります」

運命の一杯との出合いを語るのは、今回出店する子ども服、雑貨の店RINの飯塚由未さんだ。フランス風のラインナップが揃う人気店で店舗にウェイトを置く経営だが、コーヒーと日常には今回で3回目の出店。

「他の出店者様とこだわりの思いが同じっていうのも大きくて。雰囲気もいいし、毎回新しいつながりもできて刺激も受けます!」

深谷は、世界のコーヒーによっても少なからず更新されてきた。コーヒーと日常のある21世紀。コーヒーとの会話はユニヴァース(世界)を豊かに書き換える。

昨年開催時、城址公園内の様子。親子連れの姿も多く、店舗によっては行列ができるほどの賑わいだった。



「ボク、コーヒーって好きじゃなかったんです。それがスペシャルティの



中心のサードウェーブへと進展。浅煎り、フルーティといった従来なかった価値が見出され、自家焙煎するコーヒー店が深谷はじめ県北に続々と開店している。コンビニコーヒーなど、安価で手軽な楽しみ方と同時に進行したことも多様化が重視される21世紀的だ。

「たとえば酸っぱいからコーヒー苦手、っていった人に味わい方を伝えていってその魅力を知ってもらおう。そういう瞬間がうれしいですね」

フルーティなコーヒーに出会って180度変わった。この魅力を伝えることを仕事にしたいって思っただけです」

熊谷市ブレイスコーヒー店主・梅澤春樹さんは深谷市人見在住。コーヒーに人生を変えられた一人で、コーヒーと日常にも当初から関わってきた。

梅澤さんに新たなアイデアが生まれたのは5年前。市報で耐震基準の関係から今後廃用される公共施設の中に、自宅すぐそばの旧深谷消防署藤沢分署の名をみつけた時だ。同分署は梅澤さんが生まれる前の1972年に建てられている。

【取材・文】小林 真(こばやしまこと) 1963年深谷市上増田出身・在住。塾経営者、編集/ライターから深谷・ゆめ☆たまご風土飲食研究会、本庄・NINOKURAなどで活動。2017年からNPOくまがや理事として熊谷市市民活動支援センター所長、2022年1月の補欠選挙で深谷市市議会議員に。